



全大教青年交流集会に参加してきました(2)



さて今回は交流集会のはじまりを報告します。

13:00 前、会場である KKR 仙台にはぞくぞくと参加者が集まっていた。もう何年も見慣れた顔や、まだ組合に入って間もないであろう顔。毎回ながら思うのは、初参加者の始まる前の「これから何が始まるのだろう」という不安そうな顔が見ていて楽しいものだ。「おじさん達は決して無茶させないから、楽しんで仲間を作り、何かを持ち帰ってね」と、ちょっと集会上級者の僕は思うのである。

さあ、開会だ。全大教委員長の挨拶、東北大学教職員組合元委員長の挨拶、そして青年部長の挨拶とお決まりの「挨拶責め」なのだが、スケジュール上1時間しかないため、みんな端的に挨拶をしていた。内容は似ており、青年部(青年層)には期待をするような発言が多くあった。ただ、ひとつ気分を損ねたのが、全大教大西委員長の挨拶で「20代、30代を比較すると、組合意識を持ってやっているのは20代だと…。だから青年層が組合員を増やしていけば、単組や全大教が力をつけてくる」なんて感じのこと言われたんだけど、オイラは30代も半ばだけど、ちゃんと考えてやってるぜ!!

それに青年部総会や集会に人を集め、「全国の青年がまとまりのある活動にするには??」と苦しんできたのは10年ほど前の人達だよ。別に今の子達も頑張っているから言いたくはないんだけど、全大教委員長であるならば、全大教青年部が総会すら成立しなかった時代から、ここ数年間は大盛會に至っている経緯等をふまえて話してほしいもんだよ。あの当時から全大教青年部活動を支え、「組合活動を引っ張っていくのは自分たちだ」と活動を広めていった仲間も多く参加しているんだからさ。



さて、本文がぼやきで終わってしまってますが、今号はこのへんで…。次号は班別行動(仙台市内散策)を報告します。

編集者のぼやき

今回は「W ぼやき」になってしまうな。上記でぼやいたのは、オイラが1999年(だったかな…)から青年部役員をして仲間と苦労し、思い入れがあったからぼやいちゃったのさ。この部分で「(だったかな…)」を使ったのも色々ありすぎて、いつから役員で頑張ったのかという記憶が薄れているからなのよね。ただ、京都の集会(98年)のすぐ後というのは覚えている。# まあ、老化??が進んだってことだな

おじいちゃん化が進んだといえば、自分事なんだけど、7月31日でめでたく(??)34歳を迎えるのであります。この機関紙を通じて「誕生日迎えます」何て言うとなんか期待してるななんて思われそうだけど、なんもやらしい思惑なんてありません。ただ、自分自身ちゃんとした大人になっているのか心配ですな。

熊本大学教職員組合青年部機関紙
やまくら～ズ 発行 No.3 2006/07/28